6　学力向上のための取組の検証

○ 全国学力・学習状況調査を活用し、学校が全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

○ 市内のすべての学校が、各児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。

学校体制で継続的な検証改善サイクルを確立

小学校６年生平均正答率※（　）は全国比

教科	H26	H26自校	H27	H27自校	H28	H28自校
国語A	73.8		70.0		72.2	
	(0.9)	(　)	(0.0)	(　)	(-0.7)	(　)
国語B	53.3		66.7		58.7	
	(-2.2)	(　)	(1.3)	(　)	(0.9)	(　)
算数A	78.4		75.0		77.2	
	(0.3)	(　)	(-0.2)	(　)	(-0.4)	(　)
算数B	57.7		46.0		47.1	
	(-0.5)	(　)	(1.0)	(　)	(-0.1)	(　)

中学校３年生平均正答率※（　）は全国比

教科	H26	H26自校	H27	H27自校	H28	H28自校
国語A	78.7		75.8		75.6	
	(-0.7)	(　)	(0.0)	(　)	(0.0)	(　)
国語B	49.9		65.4		65.1	
	(-1.1)	(　)	(-0.4)	(　)	(-1.4)	(　)
数学A	68.1		64.5		61.9	
	(0.7)	(　)	(0.1)	(　)	(-0.3)	(　)
数学B	58.8		41.3		44.1	
	(-1.0)	(　)	(-0.3)	(　)	(0.0)	(　)

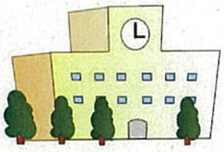
※自校と書いてある欄に、自校の数値を記入し、授業改善等にご活用ください。

小学校は、国語Aと算数A・Bで全国を下回っています。算数においては、「計算の結果を見積もる」「計算の仕方を考える」「計算の結果を振り返って確かめる」など、計算の能力を身に付けることが必要です。

中学校は、国語Bと数学Aで全国を下回っており、国語では、目的に応じて必要な情報を読み取ったり、要約したりすること、数学では、図形や資料の活用等に課題があります。

学校質問紙調査結果

学校質問紙の経年比較		H26	H27	H28
調査結果を学校全体で活用	小学校	96.3	100	100
	中学校	90.9	100	100
教育指導の改善・指導計画への反映	小学校	100	86.8	96.2
	中学校	95.5	81.8	86.3
近隣等の小中学校が教育目標を共有	小学校			84.9
	中学校			86.4
国語で様々な文章を読む習慣をつける授業の実施	小学校	71.7	79.3	86.8
	中学校	86.4	81.8	90.9
算数・数学で実生活における事象との関連を図った授業の実施	小学校	43.3	67.9	79.2
	中学校	45.5	54.6	68.1



調査結果を学校全体で共有したり、教育指導の改善・指導計画に反映させたりするなど、効果的に活用している小中学校が増えてきています。

一方、日ごろから様々な文章を読んだり、教科で学習する事柄と実生活における事象との関連を図った授業を行ったりするなど、知識や技術が定着するような手立てが必要です。

今後は、中学校区の小中学校が、教育目標を共有し、小学校から中学校への途切れのない支援を、より一層行っていくことが大切です。

子どもたちが安心して学習できる環境づくり

児童生徒質問紙の経年比較		H26	H27	H28
学校に行くのは楽しい	小学校	84.8	88.6	86.0
	中学校	83.1	83.8	84.9
	自校			
先生は、自分のよいところを認めてくれている	小学校	77.1		81.8
	中学校	71.6		80.5
	自校			
自分にはよいところがある	小学校	74.9	74.1	72.8
	中学校	66.0	69.1	67.6
	自校			

※自校と書いてある欄に、自校の数値を記入し、授業改善等にご活用ください。

子どもたちの良さを積極的に評価する教師の姿が、児童生徒の自尊感情や自己有用感を高めることにつながり、いろいろなことに挑戦しようとする意欲を醸成させます。

日常生活において、一人一人の子どもたちに向き合い、具体的な言葉かけや対応ができるよう、全教職員の目で子どもたちを見守り、少しの言動もキャッチできるアンテナを持つことが大切です。

子どもたちが、安心して学習できる環境を整えることは、互いの学び合いが充実し、全体の学力の向上につながると考えられます。

学びの基盤を支える学習規律等の環境づくり

学校質問紙の経年比較		H26	H27	H28
学習規律の維持を徹底	小学校	92.5	98.1	92.4
	中学校	100	100	95.5
児童生徒のよさ・可能性を積極的に評価	小学校	96.3	96.2	98.1
	中学校	95.5	95.5	100
児童生徒の発言や活動の時間を確保した授業展開	小学校	92.4	88.7	94.4
	中学校	100	100	95.5

子どもたちの良さや可能性を積極的に評価している学校の割合は高くなっており、「先生が、自分のよいところを認めてくれている」と回答している子どもが増えています。

学力の向上には、子どもたちが安心して学習できる学びの基盤を支える環境づくりを行うことが大切です。あいさつやルールの確認といった集団生活上必要な規律や子どもたちが互いに学び合うことを保障した授業展開等は、教室が安心感や所属感のある場所になり、子どもたちの学習意欲の向上につながります。

個々の教職員には経験等の差があり、考え方や持ち味もさまざまであることから、学校全体で子どもたち一人一人の良さや可能性を積極的に評価していく体制が必要です。学級担任や教科担任等が、一人で抱え込まず、いろいろな視点から子どもたちを見ていくことが大切です。

学力の向上をめざした授業づくり

児童生徒質問紙の経年比較		H26	H27	H28
授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた	小学校	75.0	85.5	90.5
	中学校	55.6	77.2	88.7
	自校			
児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていた	小学校	82.5	84.3	82.6
	中学校	74.6	85.1	85.3
	自校			
授業の最後に振り返り活動を行っていた	小学校	66.3	72.9	79.0
	中学校	45.8	57.0	65.7
	自校			

※自校と書いてある欄に、自校の数値を記入し、授業改善等にご活用ください。

「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」、「授業の最後に振り返り活動を行っていた」と回答している児童生徒が増加しています。

授業の見通しを持たせるための「めあて」の提示や「振り返り」活動を取り入れることにより、今日の授業で何が身についたのかが実感できます。

「今日は、何を学んだか、何が分からなかったか」などを振り返る活動については、授業の最後に行うため、時間が確保できていない状況がうかがえます。授業のタイムマネジメントが必要となってきます。

教えて考えさせる授業づくり

学校質問紙の経年比較		H26	H27	H28
習得・活用・探究を見通した指導方法の改善・工夫	小学校	67.9		90.6
	中学校	72.7		90.9
授業の中で目標（めあて・ねらい）を提示	小学校	92.4	94.3	96.2
	中学校	86.4	81.9	100
児童生徒の発言や活動の時間を確保	小学校	92.4	88.7	94.4
	中学校	100	100	95.5
学級やグループで話し合う活動を実施	小学校	92.5	90.6	94.4
	中学校	81.9	95.5	90.9
授業の最後に学習したことを振り返る活動を実施	小学校	77.3	86.8	88.7
	中学校	77.3	72.7	95.4

「習得・活用・探究を見通した指導方法の改善・工夫」を行っている学校が、平成26年度と比較して小学校で22.7ポイント、中学校で18.2ポイント増加しています。また、目標の提示や振り返り活動については、小中学校において、いずれも増加しています。

子ども主体の授業づくりをすることにより、先生が教え込む授業から、子どもたちが学びとる授業へと変わります。一人一人の子どもたちが、今日の授業で何が身についたのかを実感できることが大切です。

子どもを支える学校・家庭・地域の連携

家庭学習について

児童生徒質問紙の経年比較		H26	H27	H28
計画的に学習している	小学校	60.6	61.6	60.5
	中学校	51.1	51.5	47.8
	自校			
授業の復習をしている	小学校	47.8	48.5	45.2
	中学校	44.8	46.1	45.2
	自校			

地域行事等への参加について

児童生徒質問紙の経年比較		H26	H27	H28
地域の行事に参加している	小学校	68.2	66.9	67.5
	中学校	44.2	48.4	47.0
	自校			
地域社会などでボランティア活動に参加	小学校			56.5
	中学校			73.1
	自校			

※自校と書いてある欄に、自校の数値を記入し、授業改善等にご活用ください。

基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の定着を図るためには、地域や家庭との連携が必要です。

家庭学習については、「計画的に学習している」及び「授業の復習をしている」のいずれも、平成26年度の回答と比較して、ほぼ横ばいとなっています。

一方、「地域の行事に参加している」と回答した子どもは、平成27年度と比較して、小学校6年生が0.6ポイント増加し、中学校3年生が1.4ポイント減少しています。また、小中一貫の取組等として、地域の清掃活動等の取組を行っているところがあります。

家庭や地域との連携

家庭学習について

学校質問紙の経年比較		H26	H27	H28
保護者に対して家庭学習を促すような働きかけ	小学校	90.5	90.6	96.2
	中学校	77.3	72.7	95.4
家庭での学習方法等を具体的に提示	小学校	77.4	86.8	90.6
	中学校	86.4	81.8	90.9

地域や家庭との連携について

学校質問紙の経年比較		H26	H27	H28
学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに働きかけ	小学校	77.4	90.6	92.5
	中学校	68.2	86.4	95.5
PTAや地域の人が学校の諸活動に参加	小学校	92.4	96.2	94.4
	中学校	86.4	95.4	90.9

家庭学習については、「保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行っている」と回答した学校は、平成27年度と比較して、小学校が5.6ポイント、中学校が22.7ポイント増加しています。また、「家庭での学習方法等を具体的に提示している」と回答した学校は、平成27年度と比較して、小学校が3.8ポイント、中学校が9.1ポイント、それぞれ増加しています。

今後も家庭・地域への情報発信を積極的に行い、学校が目指している方向性や家庭・地域に何を求めているのかなどを具体的に示しながら理解と協力を求めていくことが必要です。学校・家庭・地域の強い連携が子どもたちの成長につながっていきます。